# 現代の韓国儒教と「平和の文化」

### 序論

準の平和が要求され、国家間の戦争の防止のために諸国家の主権寛容を廃絶する必要がある。またこの実現のためには、国際的水の文化の年(International Year of the Culture of Peace)」の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。そしてそれが実践の積極的な姿勢の取り組みを目的としている。これは単に世界規模での上規定し、それが採択・宣言された。これは単に世界規模での利の文化の年(世界平の平和が要求され、国家間の戦争の防止のために諸国家の主権での主権を関係を関係している。

三つの要素の相互作用によって作られるものを意味している。日常生活の中の人権尊重を重視し、平和・発展・民主主義というが必須条件となる。「平和の文化」は、生動する平和を目指してが必須条件となるように覇権主義を制限し、実質的な民主主義の実現が平等になるように覇権主義を制限し、実質的な民主主義の実現が平等になるように覇権主義を制限し、実質的な民主主義の実現が平成によっている。

とともに、核問題の勃発によって、人類の生存にまで大きな影響している地域でもある。さらに世界平和を危機的状況に陥らせる。また、同民族間の葛藤と敵対意識や相互攻撃の可能性が膨張なわち朝鮮半島は、戦争勃発の可能性が最も高い地域の一つであなわち朝鮮半島は、戦争勃発の可能性が最も高い地域の一つである。また、同民族間の葛藤と敵対意識や相互攻撃の可能性が膨張との現状認識が隠されている。朝鮮半島もその例外ではない。すとの現状認識が隠されている。朝鮮半島もその例外ではない。すとのような理想的な「平和の文化」の提唱の裏側には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、この地ともに、核問題の事業には、またいる。

をもたらす可能性が高い状況ともなっている。この南北朝鮮の戦

37

どへの訴えこそが大事であると思われる。的規律の確立だけでなく、人々の内面的・精神的な規範や思想ななろう。つまり、国際機関が提唱している「平和の文化」は国際和解による共同体の確立こそが「平和の文化」の定着の第一歩と争勃発の可能性を回避するとともに、南北間の信頼の回復、民族

通の文化的伝統の中から平和という社会統合的価値の抽出が可能統一以降の国民統合をより早く成し遂げるために、南北朝鮮の共悠思想から平和観念を再発見するという観点から考えれば、朝鮮や島の統一の過程で、民族同質性は文化的同質性を意味し、南北が思想から平和観念を再発見するという観点から考えれば、朝鮮な平和思想の中から現代社会に現れている韓国の儒教思想を素材な平和思想の中から現代社会に現れている韓国の儒教思想を素材な平和思想の中から現代社会に現れている韓国の儒教思想を素材な平和思想の中から現代社会に現れている韓国の儒教思想を素材な平和思想の中から平和という社会統合的価値の抽出が可能をいる。

5

### 二 韓国人における平和とは

となると考える。

発の可能性を防止する点である。韓国人の思考様式の中には平和の課題は、南北の分断体制によるその政治対決を克服し、戦争再り関心が高いのも事実である。そのために韓国が当面した最優先という韓国の特殊性から、国際的平和よりは国内の平和問題によという韓国人は、平和を「自由・平等・正義が実現され、全ての現代韓国人は、平和を「自由・平等・正義が実現され、全ての現代韓国人は、平和を「自由・平等・正義が実現され、全ての

制の中では平和的な未来に対する期待感が薄いということであろ状況を平和の実現状態であると捉えている。つまり、南北分断体文化の軍事化など人間的な苦痛と損害の経験から成る思考様式で文化の軍事化など人間的な苦痛と損害の経験から成る思考様式です化の軍事化など人間的な苦痛と損害の経験から成る思考様式である。その理由から戦争経験世代は消極的な平和を望み、現在のある。その理由から戦争経験世代は消極的な平和を望み、現在のある。その理由から戦争経験世代は消極的な平和の実現状態である。第一に、まず戦争経験世代は、分を望む形態が二分されている。第一に、まず戦争経験世代は、分を望む形態が二分されている。第一に、まず戦争経験世代は、分を望む形態が二分されている。第一に、まず戦争経験世代は、分

と紛争を誘発させる脅威体制を解消し、軍備競争の無い統一社会極的な条件が充足された状態を指し示している。すなわち、葛藤ろんのこと、人権保障または社会正義、経済発展などの平和の積がを表力、女性に対する差別や暴力、自然に対する暴力などを克服することである。その積極的平和とは、南北統一はもちらんのこと、人権保障または社会正義、経済発展などの平和の積度的な条件が充足された状態を指し示している。すなわち、葛藤極的な条件が充足された状態を指し示している。すなわち、葛藤極的な条件が充足された状態を指し示している。すなわち、葛藤極的な条件が充足された状態を指し示している。すなわち、葛藤極的な条件が充足された状態を指し示している。

「平和の文化」は、積極的な平和状態を指していると思われる。いる。その二つの中で実現可能なのは消極的平和である。前述の以上のように、韓国社会の中には右の二つの平和観が存在して

をつくることを意味している。

## 三 韓国儒教における平和思想

とが平天下といい、この平天下が完成された社会は平和であるとである。このような理想的社会の構成員の全てが調和を遂げるこ

ず見てみよう。

韓国が儒教思想を受容してその平和思想を生きる原理として採択調和の合一思想である。このような巫俗の平和思想的伝統は後に、になっている。これは本質的に陰陽が対立する形ではなく、陰陽になっている。これは本質的に陰陽が対立する形ではなく、陰陽調和を追求する巫俗的な平和思想が存在している。人間だけでな調和を追求する巫俗的な平和思想が存在している。人間だけでな韓国人の土着的な平和思想の中に、善と悪、人間と神、苦しみ韓国が儒教思想を受容してその平和思想の中に、善と悪、人間と神、苦しみ

韓国仏教の和諍主義、韓国儒教の和平と五倫に対する強調と平和

し、発展させる基礎となった。韓国巫俗の調和論的な平等主義。

の実践は韓国の思想的伝統が、平和主義的な性格が強いことを意

しかし韓国人の平和思想に大きな影響を与えたものの一つは、

儒教的平和伝統である。儒教に現れる平和的思想の基本理念は、

味する根拠となる。

るとするので、この至善の世界がまさに儒家が志向する理想社会を追求する努力を治人という。この修己と治人によって至善に至個人的な人格完成を追求する努力を修己といい、その社会的完成個人的な人格完成を追求する努力を修己といい、その社会的完成人間の本性に対する信頼が基になって、仁の道徳性による徳治が平天下・中和・大同思想である。平和実現の社会には、究極的に平天下・中和・大同思想である。平和実現の社会には、究極的に

ことは確かなその証明であるといえよう。
ことは確かなその証明であるといえよう。
ことは確かなその証明であるといえよう。
ことは確かなその証明であるとととのである。それを受け入れた韓民族は、伝統的に侵略に対して頑強な抵抗をとれば韓国の場合、国家と民族が葛藤を合理的に処理し平和的な上存を成就するため、平和思想を採択したことを示している。それは今まで韓民族が他民族への積極的侵略を一度も試みなかったことは確かなその証明であるといえよう。

現代の韓国儒教と「平和の文化」

を考慮する必要がある。儒教的な平和観は、韓国人に戦争よりも

して、儒教的な平和観が行った制約によるものである、という点

この認識は、韓国の具体的な歴史的状況から下された決定に対

中和平」(天地万物とともに一体になること)を意味している。 中和思想の原理は「格致誠正」と「修剤治平」の原理である。そ 中和思想の原理は「格致誠正」と「修剤治平」の原理である。そ 中和思想の原理は「格致誠正」と「修剤治平」の原理である。そ 中和思想の原理は「格致誠正」と「修剤治平」の原理である。そ 中和思想の原理は「格致誠正」と「修剤治平」の原理である。そ 中和思想の核心は、『大學』の平天下、中和、大同は究極的に の大同である。平和がまたらされることを意味している。儒教の 事と秩序と世界平和がもたらされることを意味している。儒教の でしていた。すなわち、儒家が提示した大同と平天下思想は平和の していた。すなわち、儒家が提示した大同と平天下思想は平和の 内部的実現への寄与である。

を媒介として一体感を持って、思考・行動する際に実現される。を媒介として一体感を持って、思考・行動する際に実現される。は別心である。方別は「大田社会の基本的な精神は公的な自我の消滅で同思想」である。大同社会の基本的な精神は公的な自我の消滅で同思想」である。大同社会の基本的な精神は公的な自我の消滅で同思想」である。大同社会の基本的な精神は公的な自我の消滅で同思想」である。大同社会の基本的な精神は公的な自我に真の平和は公的な自我によって実現できることを意味している。儒家の立場から見れば、よって実現できることを意味している。儒家の立場から見れば、よって実現できることを意味している。儒家の立場から見れば、よって実現できることを意味している。儒家の立場から見れば、よって実現できることを意味している。儒家の立場から見れば、この社会にない。

あるといえる。

和実現ができる強烈な道具として信じられている。また五倫は政力等現ができる強烈な道具として信じられている。また五倫は平うきする意思が強かったことを意味する。したがって、五倫は平とで、一個にない、一個に大生に対する情熱的な追求は、原則的に本性といいとで通した本性探求に対する情熱的な追求は、原則的に本性といいとである。という。 となった。韓国の思想家の仁愛、四政治学的理論の樹立に積極的であった。韓国の思想家の仁愛、四政治学的理論の樹立に積極的であった。韓国の思想家の仁愛、四政治学の本達とともに韓国のさらに、韓国の儒教思想における性理学の発達とともに韓国のさらに、韓国の儒教思想における性理学の発達とともに韓国の

思想の中心であるといえる。人道が実現される世界を「大同」と 基本的で本質的な倫理、義は私利私欲を克服する公正な道徳、 などの七情があり、人倫関係として「三綱五倫」が位置する。 治的な意味だけでなく、倫理的意味から平和を実現する手段であ 郷約」に現れる公共の倫理があり、民本的価値観も相当重視され と退渓李滉とが挙げられる。李滉の「禮安郷約」や李珥の「書院 は仁を実現する手段的な価値として言及されるものであった。 行動の基準である。仁は慈愛、温和、寛容が含まれる社会関係の は道徳、法律、宗教、軍事などの社会的機能が分化される以前の つの不義を行って無辜な人を殺して天下を得られるとしてもその た。栗谷李珥の思想は、韓国儒教の核心であり、韓国儒教の平和 った。その儒教の倫理道徳には「仁・義・禮・智・勇・忠・信」 いう。『聖學輯要』の為政編では「創業の道」を論じながら「一 以上のような儒教思想を発展させた韓国の思想家は、栗谷李珥

強く現れる儒教的な価値観の一つである「家族第一主義」となる。 ある」とみていることである。この思想が後に、韓国現代社会に 「家族は縮小された一つの国家であり、国家は拡大された家族で その倫理として拡張された。家族と国家は対立されるものでなく、 内での倫理をその基本とし、隣人、社会と国家に適応することが る。支配者の倫理としての儒教は人間関係の最も基礎となる家族 父長制的な家族制度の倫理、すなわち支配の倫理と位置づけてい 間での倫理を含み、支配階級の理論を「修己治人之道」とし、家 である。儒教の思想体系は、個人と家族内での倫理、社会と国家 強調した。この「修身斉家治国平天下」は儒教の中心的な平和観 点、今一つは修己身より先に心を正す正心とともに誠意の先行を に導く外部的平和の樹立の契機が修己と篤恭の徳から与えられる 次の二つのことを強調した。一つは民を安らかにし、天下を和平

現代の韓国人の儒教的価値観

以上のような伝統儒教の平和思想が存在していたが、現在の韓

代化過程で形成されたものなのかの判別は簡単ではない。という 化の過程に否定的な影響(近代化、民主主義の発展、市民意識の 変形されたものも多くあるからである。そして、儒教思想が近代 植民地と南北分断の過程で儒教の価値観が様々な部分で現代的に のは、韓国儒教の遺産であると考えられるものの相当の部分が、 国人の意識の中でどんなものが儒教的な影響なのか、どの点が近

現代の韓国儒教と「平和の文化」

拠であるとする。「修身斉家治国平天下」の儒教平和観に対して、 「敬」は全ての根本で全てが主体的に処世する倫理的な態度の根 統を明白にしている。

を心に留めて置かなければならない。」という人権尊重思想の伝 ら天下が得られるとしてもそのようなことは行わないという考え 訣』では「当然一つの不義を行って、一人の無辜な人を殺してか ようなことは行わない。」という孟子の言葉を引用し、『撃蒙要

一方、退渓李滉は「敬」を、平和へ導く道として強調する。

的な平和主義を内包しており、今日我々はそれを再認識する必要も動きもあるが、平和思想の観点から考察すれば、内面的・精神問題提起がなされている。一方では、儒教思想を否定的に評価す儒教資本主義論の登場によって、その肯定的役割に対する新しい成長に障害物として作用)を及ぼしたという評価もあるが、近年、成長に障害物として作用)を及ぼしたという評価もあるが、近年、

族中心主義を生むことになる。 実際に韓国社会では、儒教的な価値観が時代とともに希薄にな 実際に韓国社会では、儒教的な価値観が時代とともに希薄にな という説明が可能である。それは、中国や日 思考などは確かに儒教思想から出発している。それは、中国や日 思考などは確かに儒教思想が多出発している。それは、中国や日 思考などは確かに儒教思想が多重視する思考、家族倫理を重視する を此べれば、多分に韓国的なものである。というのも、五〇〇 思考などは確かに儒教思想が多重視する思考、家族倫理を重視する なのであるからである。この家族中心主義的な思想は、既述した なのであるからである。これは先に斉家するならば、後に治 本と比べれば、多分に韓国的なものである。というのも、五〇〇 本と比べれば、多分に韓国とのような を持ていた。というのも、五〇〇 というのも、五〇〇 というのも、五〇〇 本と比べれば、中国や日 ないうに、一名のである。というのも、五〇〇 本と比べれば、中国や日 ないうに、一名のである。というのも、五〇〇 本と比べれば、中国や日 というに、一名のである。というのも、五〇〇 本と比べれば、中国や日 は、既述したる。というのも、五〇〇 本と比べれば、中国や日 は、いうに、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのも、五〇〇 本という語は、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というのである。というのも、五〇〇 本というに、一名のである。というに、一名のである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのである。というのでないる。というのである。というのでないる。というのでない。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないる。というのでないないないる。というのでないないないない。というのでないる。というのでないる。というのでないないる

値観が充満していることは確かである。

華だけを考える風潮を生む根源となった。またそれは、姓氏の派この思想は、一家一族や門閥の重視によって子々孫々の富貴栄

の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価や老人虐待などの社会犯罪をみると、このような「孝」や「敬」の文化が生まれ、個人が独立した自我意識より家族としての「我々」の構成因子として存在することになる。つまり、現在結びついている家族とは現世だけでなく、祖先、親戚、井木の子孫にまで結合するという観念をもち、現在の韓国社会で未来の子孫にまで結合するという観念をもち、現在の韓国社会で未来の子孫にまで結合するという観念をもち、現在の韓国社会を重える。この思想は、人間社会において水平社会より垂直社会を重える。この思想は、人間社会において水平社会より垂直社会を重える。この思想は、人間社会において水平社会より垂直社会を重える。この思想は、人間社会において水平社会より垂直社会を重える。この思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価の思想や位階秩序の意識などが薄れ、個人主義的な合理主義の価や表にいることによります。

分断、国家抑圧の政治経済の現実に言及せず、しかも儒教の道徳主化と社会発展に深刻な束縛になっている。だが、破行的近代化、方、政治、経済、社会倫理としての儒教の道徳主義は個人の道徳的決断の問題だけが西欧的価値観と結合して現れている。すなわち、政治、経済、社会倫理としての儒教の道徳主義は個人の道徳的社会関係、両性平等、他人に対する寛容、共益優先とは背馳される要素をもっているため否定的な影響を与え、今日の韓国の民力、企業を順人の道徳の社会では過失される要素をもっているため否定的な影響を与え、今日の韓国の民力がある。 実際、現代韓国社会では儒教社会倫理の肯定的側面であった実際、現代韓国社会では儒教社会倫理の肯定的側面であった実際、現代韓国社会では儒教社会倫理の肯定的側面であった

会秩序の不安感を強い人情的な絆へと結束させることになるだろも必要である。そして、家族間の「孝」と「友愛」は合理的な社値観のように信頼、義理などの価値観を現代的に発展させること値表示することは本末転倒であり、実践の力もない。「孝」の価律一般を強調しながら、今日の無秩序、物質万能主義の対案とし

次に、儒教的価値観では法より礼が強調された。礼は利害の追求や葛藤などを忌避し調和を重視する。法は事後的な行動によって判断するが、礼は行動の内的な基礎となる。(禮:私的な側面で判断するが、礼は行動の内的な基礎となる。(禮:私的な側面で判断するが、礼は行動の内的な基礎となる。(禮:私的な側面で判断するが、礼は行動の内的な基礎となる。(禮:私的な側面でかち、礼を重視することによって儒教では、貪欲と富の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、貪欲と富の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、貪欲と富の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、貪欲と富の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、食いと言の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、貪欲と富の追求をなわち、礼を重視することによって儒教では、食いと言いなと言いると、差別のような礼のと言いると言いると、

ことである。

### 五 結 論

本稿は、韓国の儒教思想から平和観念の抽出を試みた。その結

想から発見することによって民族的な正体性を確認しようとする点である。そして国の平和教育の基となる平和教育理念を伝統思想がら発見することができた。本稿で、韓国の伝統思想を基礎として平和の概念を正しく理解するにとができた。本稿で、韓国の伝統思想を基礎として平和の概念を正しく理解する作業は、他の文化によを基礎として平和の概念を正しく理解する作業は、他の文化によが可能という知見を得ることができた。本稿で、韓国の平和概念が可能という知見を得ることができた。本稿で、韓国の平和概念が可能という知見を得ることができた。本稿で、韓国の平和概念が可能という知見を得ることによって民族的な正体性を確認しようとする点である。そして国の平和教育の基となる平和教育理念を伝統思想から発見することによって民族的な正体性を確認しようとする点である。そして国の平和教育の基となる平和教育理念を伝統思想から発見することによって民族的な正体性を確認しようとする点である。そして国の平和教育の基となる平和教育理念を伝統思想から発見することによって民族的な正体性を確認しようとする。

になる。 
になる。 
になる。 
はい。 
ので平和共存の文化形成という本質的な責任が果たせられることは、 
様に再発見し、現代化して平和教育の具体化に寄与することによ 
様とに、その作業によって韓国がもった平和の思想的資源を多

を「平和の文化と世界子どもたちのための非暴力一〇年(1) 国連は、一九九八年に二〇〇一年から二〇一〇年までの一〇年間

(International Decade for a Culture of Peace and Non-vio-lence for the Children of the World)」として定めた。これは、ロネスコ憲章に明示されている「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かれなければならない」という原則に基づいて提唱したものである。

- 多様性を保障することである。 
  のすり「平和の文化」は、政治的平等と社会的公平、そして文化的でまり「平和の文化」は、政治的平等と社会的公平、そして文化的の主が、受け入れ、その価値を尊重する方へ進めていくことである。 
  のまり、平和の文化」は、政治的平等と社会的公平、そして文化的多様性を保障することである。
- ル) 『高鳳論集』第二九輯、慶熙大學校大学院、二〇〇一(ソウ戦略」『高鳳論集』第二九輯、慶熙大學校大学院、二〇〇一(ソウ戦略」『高鳳論集』第二九輯、慶熙大學校大学院、二〇〇一(ソウ
- (4) 消極的平和は戦争と暴力がない状態であって、最小限の実践的なウル)、一九一・一九二頁 究」『国民倫理研究』第四三号、韓国国民倫理学会、二〇〇〇(ソ(3) キム・コクヒョン「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研(3) キム・コクヒョン「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研(3)
- (5) キム・インフェ『韓国人の巫俗の価値観――巫俗と教育哲学』、(4) 消極的平和は戦争と暴力がない状態であって、最小限の実践的な(4) 消極的平和は戦争と暴力がない状態であって、最小限の実践的な
- 熙大学校(ソウル)、一九八三、五五・五六頁(6) イ・カンス「平和の理想と現実」『平和研究』第三巻第一号、慶文音社(ソウル)、一九八一、二四四・二四五頁
- 教的平和観は、内面的・精神的な完成を追究する側面から考えれば、儒教では、平和を直接的な目標として挙げてないものの、この儒思大学校(ソウル)、一九八三、五五・五六頁
- し、人間に与えられた最高の義務が平和世界の実現であることを意(7) 平天下は、真の意味で自我実現を普遍的に実現させることを意味

戦争より平和を持続的に追究するものである。

外している。

- 真の平和を意味する。 (8) 中和は、天地万物が基の場におかれることを意味し、協定や協約(8) 中和は、天地万物が基の場におかれることを意味し、協定や協約
- (9) 大同思想は、分裂を招く私的な自我の消滅という基本的精神を志と礼儀で対応することを意味する。 大同思想は、分裂を招く私的な自我の消滅という基本的精神を志と礼儀で対応することを意味する。
- 研究所編、哲学と現実社(ソウル)、一九九五、二四七頁(10) チョン・インジェ「中国の平和思想」、『平和の哲学』西江大哲学
- は、普遍的な自我、つまり自我と他人の間に間隔や境界線がないこし、自我と他人の間に間隔と境界線があることを示す。公的な自我(11) 私的・公的な自我に分類し、私的な自我は固体としての自我を指
- 究」、前掲書、一九二~一九八頁(12) キム・コクヒョン「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研(
- (ソウル)、一九九四、一四四頁(ソウル)、一九九四、一四四頁
- 究」、前掲書、一九一・一九二頁 年ム・コクヒョン「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研究」、前掲書、一九一・一九二頁

#### 参考文献

(ソウル)、一九八八韓国宗教文化史講義』、図書出版チョンニョンサ韓国宗教研究会編、『韓国宗教文化史講義』、図書出版チョンニョンサ

キム・ヨンファン、『寛容と開かれた社会』、哲学と現実社(ソウル)、二〇〇一二〇〇一二〇〇十二年の社会哲学的な再照明』、高麗大学出版部(ソウル)、李承煥、『儒家思想の社会哲学的な再照明』、高麗大学出版部(ソウル)、

#### 九九七

にはずいによいをほことと(アフント・しんに)で、不和研究』第李康洙、「平和の理想と現実――儒家の理論を中心に」、『平和研究』第(ソウル)、一九八一

学校(ソウル)、一九八三『国民倫理研究』第三巻第一号、慶熙大子ョン・インジェ、『中国の平和思想』、『平和研究』第三巻第一号、慶熙大所編、哲学と現実社(ソウル)、一九九五所編、哲学と現実社(ソウル)、一九九五年。 韓国国民倫理研究』第四三号、韓国国民倫理学会(ソウル)、二〇〇〇半ム・クッキョン、「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研究」、キム・クッキョン、「韓国儒教の平和思想と平和教育に関する研究」、

(Moon, Hi-Jin、異文化交流史・比較文化、

愛知学院大学教養部外国人教師・博士)